

## 第2回「京都市地域コミュニティ活性化推進計画」の改定に向けた第1テーマの検討部会

1 日 時 令和元年12月9日（月） 午後6時～7時40分

2 場 所 ウイングス京都 セミナー室

3 出席者 委員7名

事務局（別府文化市民局長，猪田地域自治推進室長，樋掛地域コミュニティ・北部山間  
振興部長，大東地域づくり推進課長，川瀬市民活動支援課長，他）

4 概 要

事務局から資料3を基に前回の議論の概要等について説明

～「だれもが自治会・町内会活動に参加しやすくなる方策」について，ワークショップを実施～

（ワークショップで出た主な意見）

- ・ 孤立しやすい乳幼児の親もいる中で，子ども食堂は，貧困対策のみならず，子どもたちを通じて，親同士あるいは世代間の交流につながっている。
- ・ 地域活動の広報については，紙ベースの広報も大事だが，ホームページやSNSを使う人も多いので，それらを活用してはどうか。例えば，ホームページの基盤となるシステムを用意して，行事予定の情報をスピーディーに提供することも大事である。また，学校や学校運営協議会などのホームページとのリンクも効果的である。
- ・ 地域の情報が集まるハブの役割が町内会にあれば，地域を実感するきっかけにもなる。子どもたちもSNSを使う時代なので，SNSなどを活用すると町内会を身近に感じてもらえる。
- ・ 転入者への声掛けに使えるツールがあればよい。
- ・ 子どもの居場所づくりに関しては，場所の確保と世話をする人の確保，そして資金が大きな課題としてある。行政の役割・施策としては，これらのサポートがある。
- ・ 少子高齢化の進行により，地域に密着して生活する高齢者が増えると予想されるので，高齢者を地域活動に引き込むチャンスである。地域の高齢者ができること・やりたいこと（シーズ），やってほしいこと・求めていること（ニーズ）をつないであげる。例としては，文庫活動や町内会によるアルバイトの斡旋などが考えられる。
- ・ 学生に関しては，定住ということにこだわらず，まずはサークル的な活動で構わないので，参加してもらえるきっかけがあれば良い。
- ・ 自治会・町内会の加入促進も大事だが，まずは町内会活動の魅力を高めることにより，結果として加入する人が増えるという形が望ましい。
- ・ 町内会活動の魅力を更にアップさせるには，役員が輪番制では難しい。また，すべての活動を町内会でやりきるの難しいので，町内会として可能な活動を考えていく必要がある。